

---

# IS ~ インフィニットストラトス ~ 一撃必中

一撃必中

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IS～インフィニットストラトス～一撃必中

### 【Nコード】

N6266Q

### 【作者名】

一撃必中

### 【あらすじ】

IS～インフィニットストラトス～の登場によって男尊女卑から女尊男卑の世の中が変わってしまった世界。これは織斑一夏と東雲拓也が紡ぐIfの物語。

初めて書いた物なのでご意見などお聞かせねがえると嬉しいです。

## プロローグ

「欧州のとある研究所」

「な、何だよあれは!!」

「知らないわよ、そんな事!大体あれはISなの!？」

2人の女性は困惑していた、今自分たちが何と戦っているのかその事に……

女性達が身に着けている物…… ISとは似ても似つかないのだ。

「????」

「ハア…… すぐにここ破壊して逃げるつもりだったんだけどな……」

1人の少年が目の前の状況を見て1人溜め息をついた

「目の前の2機につげる、亡国機業ファントム・タスクについて知っていることは？」

「女性達サイド」

「な!？」

女性はそれ以上言葉がでなかった。言っている内容には……

「相手が『男』だったからだ……」

「何故男がISを使える!? 大体それはISなのか!？」

「????」

「質問しているのはこちらなのだが……」

「……もう時間もないサヨナラだ」

「女性達サイド」

敵が言葉を発したあと急に敵の動きが変わった。

彼女達が最後に見たのは背中から緑色の粒子を出している『何か』だった。

「????」

「……終わつたか」目の前の研究所の残骸を見ながら少年が呟いた。

「また、収穫はなしか…… うん通信？」

「やつほ……!! たくん!!」

「たくん止めましようよ東さん……」

「も〜昔みたく束姉〜って呼んでよ〜!!」

「…昔の事です。それで、どうしたのですか？何か急用でも？」

「あのね、お誕生日おめでと〜って言おうと思ったんだよ」

「誕生日？ってああ今日で俺15歳か」

「やっぱり忘れてたんだね…」

「いや、最近忙しくて…で、それだけではないのでしょ」

「お〜鋭いねさっすがた〜くん!!ち〜ちゃんお届け物してほしいんだ」

「千冬さんにとってことは、あれですか？」

「そだよ〜じゃあ待ってるから取りに来てね〜バイバーイ」

「相変わらずだな束姉は…んじゃ行きますか」

緑色の粒子の尾を引きながらそれは飛び立って行った。

## IS〈インフィニットストラトス〉一撃必中

〈欧州のとある研究所〉

「な、何だよあれは!!」

「知らないわよ、そんな事!大体あれはISなの!？」

2人の女性は困惑していた、今自分たちが何と戦っているのかその事に…

女性達が身に着けている物… ISとは似ても似つかないのだ。

〈???〉

「ハア… すぐにここ破壊して逃げるつもりだったんだけどな…」

1人の少年が目の前の状況を見て1人溜め息をついた

「目の前の2機につげる、亡国機業ファントム・タスクについて知っていることは？」

〈女性達サイド〉

「な!？」

女性はそれ以上言葉がでなかった。言っている内容にはない……

… 相手が『男』だったからだ…

「何故男がISを使える!? 大体それはISなのか!？」

〈???〉

「質問しているのはこちらなのだがな…」

「… もう時間もないサヨナラだ」

〈女性達サイド〉

敵が言葉を発したあと急に敵の動きが変わった。

彼女達が最後に見たのは背中から緑色の粒子を出している『何か』だった。

〈???〉

「… 終わったか」目の前の研究所の残骸を見ながら少年が呟いた。

「また、収穫はなしか… うん通信？」

「やつほ〜!! た〜くん!!」

「た〜くん止めましようよ東さん…」

「も〜昔みたく束姉〜って呼んでよ〜!!」

「…昔の事です。それで、どうしたのですか？何か急用でも？」

「あのね、お誕生日おめでと〜って言おうと思ったんだよ」

「誕生日？ってああ今日で俺15歳か」

「やっぱり忘れてたんだね…」

「いや、最近忙しくて…で、それだけではないのでしょ」

「お〜鋭いねさっすがた〜くん!!ち〜ちゃんお届け物してほしいんだ」

「千冬さんにとってことは、あれですか？」

「そだよ〜じゃあ待ってるから取りに来てね〜バイバーイ」

「相変わらずだな束姉は…んじゃ行きますか」

緑色の粒子の尾を引きながらそれは飛び立って行った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6266q/>

---

IS～インフィニットストラトス～一撃必中

2011年10月8日17時24分発行